5月の道内景況　情報連絡員レポート

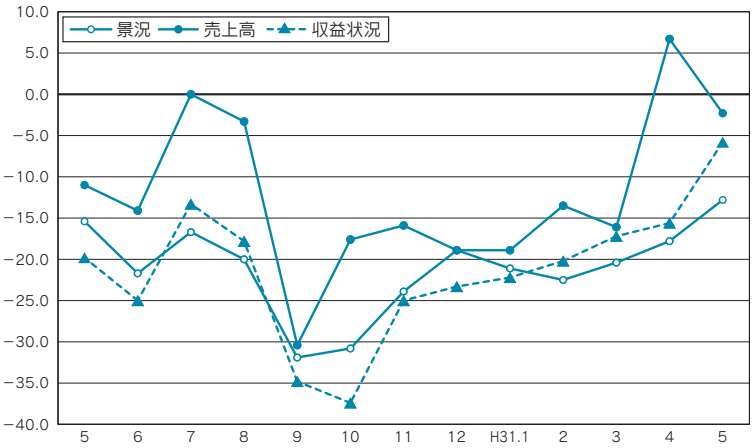
一転、売上高が悪化　10連休も効果薄く

概　況

全業種の主要DI値の推移では、「景況」「収益状況」が引き続き改善したが、「売上高」は悪化した。

業種別の前月との比較では、製造業では「景況」「収益状況」「資金繰り」が改善したが、「売上高」「販売価格」「雇用人員」が悪化した。非製造業では「景況」「収益状況」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」が改善したが、「売上高」「雇用人員」が悪化した。

主要 DI 値の推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
業界の景況	△17.8	△12.8	5.0 ↗	△21.2	△15.2	6.1 ↗	△15.8	△11.3	4.5 ↗
売上高	6.7	△2.3	△9.0 ↘	6.1	3.0	△3.0 ↘	7.0	△5.7	△12.7 ↘
収益状況	△15.6	△5.8	9.7 ↗	△12.1	△3.0	9.1 ↗	△17.5	△7.5	10.0 ↗
販売価格	11.1	8.1	△3.0 ↘	18.2	6.1	△12.1 ↘	7.0	9.4	2.4 ↗
取引条件	△4.4	△2.3	2.1 ↗	△3.0	△3.0	0.0 →	△5.3	△1.9	3.4 ↗
資金繰り	△8.9	△3.5	5.4 ↗	△12.1	△9.1	3.0 ↗	△7.0	0.0	7.0 ↗
雇用人員	△5.6	△7.0	△1.4 ↘	0.0	△3.0	△3.0 ↘	△8.8	△9.4	△0.7 ↘

（凡例）　30以上　10～29　9～△10　△11～△29　△30以下

天気図の見方　各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（D・I値）をもとに作成。その基準は上記のとおりである。

製造業

・10 連休の効果で売上増。原材料の高止まりで販売価格は上昇を続けている。
（水産食料品／全道）
・各社値上げが先延ばしになり収益を圧迫している。特に量販店へ納入しているところは大変苦労している。従業員もなかなか集まらず長続きもせずで人手不足が続いている。（めん類／全道）
・4 月単月で味噌・醤油の出荷量は前年比増。10 連休による仮需かと思われる。今後の 2 ～ 3 ヶ月後の出荷推移を見てみないと判断がつかない。
（味噌・醤油／全道）
・4 月の 10 連休前に受注アップした分 5 月に反動で下がっている。
（水産食料品／函館）
・5 月は新元号令和がスタートし新しい時代を迎えたことへの高揚感から消費マインドが上向き、10 連休に加え夏を思わせる暑い天候が続き飲料への需要が高まった。（飲料／全道）
・製材市況は、カラマツは強含み～強気配。エゾ・トドマツは保合～強保合。原木市況は、カラマツは保合～強保合。エゾ・トドマツは保合。カラマツ原木は、地域差はあるが、不足は若干解消された感はある。製材では注文は順調に入っている模様。ラミナがやや低調とのこと。エゾ・トドマツ原木は、カラマツよりは不足感が解消されつつある模様です。原料材については、バイオマスの関係で不足感が一部地域で見られる模様。エゾ・トドマツの製材は、荷動きはやや鈍く、今後の値上げについて検討するところもある模様。小径材については慢性的に不足している状況である。（一般製材／全道）
・5 月の生コン出荷量は 243 千 m^3 で、前月比は 27.0％増、前年同月比は 0.8％増となった。地域別には、前年同月を上回った分会（協組）は 29 分会（協組）中、16 分会（協組）で前年（増加は 15 分会（協組））を上回った。前年同月と比較して、増加したのは苫小牧、岩宇、北東十勝など。一方、減少したのは小樽地区、千歳地区、札幌などであった。
（窯業・土石製品製造業／全道・生コン）
・消費税増税前の駆け込み需要と思われる住宅建築の申請件数が、約 1.4 倍と昨年同期より大幅に増加している。一方で人手不足で延び延びにされている物件もあると聞く。働き方改革による社員の休日の増加によって生産性が低下している。また、賃金の実質的増加と、従業員の雇用増により、さらに人件費が上がり収益が悪化してきている状況。繁忙期に入って来るとさらに悪くなることが予想される。（窯業・土石製品製造業／全道・ガラス）
・各業種とも原材料費・運搬費の高騰など、売上増以上にコストの増加が大きく、利益が出にくい状況。（金属機械工作／札幌）
・今のところ、オリンピック工事終了予想に伴う受注減はない。問題点は米中貿易問題から生じる動向が読めず・設備投資等の現状と動向について設備増設は慎重に対応している。（金属機械工作／旭川）
・5 月期の売上高は前年並みか微増傾向にあると思われます。今後も動向を注視して行きたいと思う。（家具／旭川）

非製造業（卸・小売・商店街・サービス業）

・官公庁の受注を抱える企業は 4 月に続き売上増となったが、一般の需要は低調。靴履物では低価格のスニーカー以外はヒット商品がない状況で、物流経費の上昇により収益が圧迫されている。秋冬の季節商品で春夏の不振をカバーしたいところ。新卒採用により全体的に雇用は増加している。団地再整備は 12 月の建物完成に向かって順調に工事が進行している。（各種商品／札幌）
・北海道で史上初めて、5 月の猛暑日が 2 日間、その前後に長く続く少雨状態、主産業の農業への影響が心配される。（各種商品／帯広）
・GW の長期休みのため 4 月度に納品が多くなった反動、その後動きも停滞しやや状況としては厳しかった。取引先である小売りの商況も良くなく、帳合変更も続いており収益面でも厳しくなっている。（菓子／全道）
・10 連休中の消費拡大が期待されていたが、好天に恵まれたこともあり客足が分散され、百貨店、流通業の売上は苦戦している。（各種商品／札幌）
・10 連休のゴールデンウィークは、天候が良く DIY センターでの利用が好調で、大型家電量販店の売上も増加し前年を上回った。キャッシングにおいては、前年より減少し、収益では加盟店手数料が同業他社との競争激化と、キャッシュレス消費者還元事業の低手数料明示に伴う既存店の取引条件低減による悪化もあるため減少した。（各種商品／旭川）
・GW は来店者が多かった。日本人の観光客も多く、各店の売上増につながったようだ。前半は好調だったが、後半は息切れのように落ち着いた。特売日も先月ほどの来場者はなかった。（各種商品／小樽）
・5 月の各組合員の状況について
5 月の各組合員の状況は、売上については小売店の各組合員、前半の大型連休中は前年を上回る売上を確保することができたとのこと。しかし、中旬以降については厳しい状況が続いたとの声が多かった。今後については、前月同様、消費税増税も控えて先行きを不安視する声が多く聞かれた。（各種商品／釧路）
・GW も例年同様に車利用の道内客が目立ち、期間中の駐車場利用は 1 割強の増加で推移した。各店舗でも初日から賑わいが見受けられ、どんぶり横丁市場や活いか釣堀では、久しぶりに行列が途切れない時間帯が続いた。一方で、やはりアルバイトなどの人手がどの店舗でも不足気味であり、今後は当連合会としても対策を講じていかなければならないと感じた。2018 年度の青果物地方卸売市場の取扱量は前年比 7％減の 3 万 8398 トン、取扱金額は同 5％減の 100 億 9720 万円と取扱量は 9 年連続で前年を下回り、取扱金額においては過去最低となった。函館市水産物地方卸売市場の水産物の取扱量も過去最低であり、こちらはイカの不漁が大きな要因だったが、一方でホッケやブリは増えたようだ。特にホッケ漁が好調で本年度 5 月現在で取扱量は前年同期比 2.3 倍の 146 トンに達し、過去 7 年で最高を記録した。また、1 月から上昇を続けていた函館市内のガソリン価格が GW 明けから下落に転じた。石油情報センターによると 5 月に入り米中の貿易摩擦で石油需要の減少が見込まれ原油価格が落ち込み、それに伴い石油元売り各社の卸値も下落したため。しかしながら、地場の中小店では「激しい価格競争の末、卸値以上に店頭価格が下落し、これ以上の値下げは厳しい」との声も聞こえており、価格動向の先行きは不透明。（各種商品／函館）
・5 月の連休での売り上げはかなり良かったが、連休後の落ち込みがひどく 5 月期はトータルでは変化のない月となった。また、商品価格がかなり上がり利益に影響が出た。（各種食料品／札幌）
・連休の影響が大きかった。自宅を留守にする人が多く、学生も帰省したため、販売ばかりか修理に来る人も減った。後半、天気が良好だったので少し盛り返したようだ。（自転車・自動車／全道）
・今月は、10 連休もあり、当市場も賑わいがあった。豪華客船も 4 回入港し外国人でも賑わった。今年度の日曜営業もはじまり、各店自由営業のため営業している店舗は少ないが、昨年から実施しているので、少しづつ定着している。地方ナンバーの車も多く見られた。（鮮魚／釧路）
・5 月については、イラン情勢等が依然好転しないこともあって、原油価格が高騰し仕入れ価格は不安定な状況が続いた。また、末端の需要環境などは節約基調を背景にこれまでと同様に厳しい状況が続いており、特に地方販売店の整理・淘汰の動きも加速傾向にある。いずれにしても、燃料油の減販を見込んで適正収益を確保するには、これまで以上に、採算販売の徹底、経営体質の強化が緊急の課題。一部大手企業等にあっては景気の良い話もしているが、特に地方にあっては消費意欲の減退に危機感を持っている事業者も多い。また、至近の販売状況等を見ると、為替、原油価格の影響を受け一時仕切り価格が大幅に上がったこともあり、末端での値取りができ得ない販売事業者も多く、依然厳しい経営環境が続いている状況に変わりはない。（燃料／全道）
・藤丸百貨店の 4 月売上高は、3 億 8 千 6 百万円（前年同月比 6.3％減）。市内大型 5 店とスーパー 3 社の 4 月売上高は、46 億 7 千 6 百万円（前年同月比 2.6％減）。5 月、共通駐車券の利用は、前年比 96.7％、買物共通バス券の利用は、前年比 89.8％。NHK 連続テレビ小説「なつぞら」がスタートして 2 ヶ月、ドラマの情報発信拠点を開設した市内 3 施設で観光入込客数の合計が 2 万人を突破。「なつぞら」効果に期待。（帯広市／帯広）
・大企業の IT 投資が活発なことに加えて、道内の中堅、中小企業の IT 投資も増加している。2020 年 1 月のウィンドウズ 7 のサポート終了に伴う更新需要に加えて、今年 10 月の消費税率の見直し及び軽減税率実施へのシステム改修等、引き続きシステムの刷新、新規開発が伸長する見込みだ。さらに、製造・医療・金融ではインターネットサービスを扱う際に必要なセキュリティ強化や決済サービスへの IT 投資の拡大が見込まれている。流通業界でも人材不足やインバウンド需要への対応のために、業務の効率化や生産性向上が求められ、そのためのシステム開発が堅調に伸びると予想されている。さらに、自前サーバーからクラウドサービスへの移行案件の需要も増えて、道内のシステム開発ビジネスは相変わらずの拡大が続き、当分、収益は別にして道内の IT 企業は道内外からのシステム開発需要の要求が増加して多忙を極めることになりそうだ。（ソフトウェア／全道）

非製造業（建設・運輸業）

・5 月の業況は、電気工事業にとっては新年度明け直ぐや 10 連休と特段の工事は見られなかったが連休明けより公共工事の発注が増加している。今後の官民発注物件の動向に期待するところ。相変わらず労働力不足で、当分解消されそうもない。（電気工事／全道）
・組合員の業況
5 月に入り公共事業の発注が相次ぎ、民間の工事も適度にあることから、上半期の受注機会は前年並みと見込んでいる。
・問題点
10 月に消費税率改正が予定されていることから、9 月末までの工期の発注がほとんどで、それ以後の予定が示されていない。人材確保が厳しい状況の上、公共事業が一時期に集中することにより、消化不良をおこさないか懸念される。また、修繕工事等への対応がしきれない状況が予想される。建設関係や一般の企業において技術者、作業員、事務員の募集が頻繁に地方紙に掲載され、なかなか充足しない状況が続いている。（管工事／名寄）
・GW で荷主・倉庫のほとんどが休みとなり、稼働がない分減少している。
（一般貨物自動車運送／小樽）
・馬鈴薯については加工用が例年と同様の荷動きであったが、生食用を含め月末までにほぼ終了した。北海道発の他の荷動きは例年より鈍い。一般カーゴについても荷動きは鈍い。道外発の到着貨物についても減少傾向となっている。域内輸送も GW 明けから減少している。飲料については気温上昇に伴い活発化するとの期待があったが思ったほど動かなかった。
（一般貨物自動車運送／石狩）
・売上高は、前年同月比 3.6％減少。乗務員数は前年同月比 7.5％減少。4 月分チケット取扱高は前年同月比 5.7％増加。（一般乗用旅客／旭川）